

得て出馬は是迄延引せしが既小今年も春深し軍營調練も満是より速小
 出陣あり言岡神戸の城を一時小臨しとをゆる年の辱を乞ふんと評定の席に
 詔ありし小本中進出く言ははらく去来言岡の城を圍し既小攻振りしと
 づれせ山崎が降参せし願ふ小よりくを修河降陣ありし和渠係君の物とを言ふと
 是に遠道の漸出陣は之罪を責むるありとす軍小理ありし言もまはる言
 岡(使者と遣えし降参延引の義を以て)後河出馬あらせらる一羽の如
 く多て胸の君の道理の如く強く且寛仁の河沙治るは彼國人候おのづから山
 崎彈正が偽を悪む心も出来りて君は悪小降伏し招きまこと事とし
 河使者山崎小利解を関せ渠備降伏しとす言の言も响とすは後河を大軍とす
 くらも圍し城を下し獲しとを言ふ小織田殿同く至ひと取えし使者とす言を
 山崎が返答せきとす言小甚くを禮の挨拶を言ふ信長大小怒らせとひ今ハ

片時も猶縁をせと疾推進を臨つとせと。同来二月初八日飯泉と出軍お
 らせらる。濱引尾引の軍勢小三軍の加勢と都合を言。四方余騎とて听し威
 風ハ山林の樹木を枯し。穀氣ハ空虚の雲を臨し對する飯泉の城より来名を
 十二之里が言間小軍を臨し後を言。諸九日の来小入る頃来名小出陣すし
 くるが。龍川を言途へ君の城中へ河陣と居らき。総軍勢ハ中中小隙隙も
 あり後先満せり。勢ハの武士とまじりて。懼怖を神懸消し言とす言
 たりまこと言岡神戸八田おの此も怖ますと案謀と推言来らる言小猛勇と
 せん。とす。籠索を引く後懸し。然後小織田殿の来言の選懼もあま言
 高岡を攻落し。丹時小神戸へ推進し。と暢らせとあふと本下秀吉君大軍
 を敷させとひ此地を河出馬す。言せの彼之城を攻臨して。河腹療を
 至せん為名來水治し。とあふ義の部量の大軍を敷させとひ。山崎が言